

公害環境委員会 現地調査 久米島班

平成13年10月20日午前9時ころより午後3時半ころまで

場所：久米島内複数箇所

出席者 自然文化センター  
委員会

山城勇人氏

佐和洋亮、坂元雅行、二関辰朗、関口佳織、  
久連山陽子、高橋邦明

現地調査・質疑応答等

#### < 自然文化センター >

前日具志川村教育委員会から借りた長靴6足を持って、午前9時前に自然文化センターに到着。キクザトサワヘビは午前中に活動するとの情報があり、山城氏から話を聞く前に現地調査を行うことを要望。山城氏がレンタカーのうち1台に乗って自然文化センターを出発する。

#### < 農業用水を散布するスプリンクラー >

現地に行く途中はサトウキビ畑が広がっていた。畑では前日通過した台風による塩害を防止するため、スプリンクラーによってダムから引いた水が散布されていた。土地は赤土である。

森に入るとセミが多く鳴いていた。久米島では、セミは4月から11月ころまで鳴いており、季節によってかわるがわる色々なセミが鳴く。

#### < キクザトサワヘビを紹介する立看板 >

キクザトサワヘビの存在と希少性、保護を観光客等にアピールするためだるま山周辺のキクザトサワヘビを紹介する立看板に立ち寄った。

久米島には希少動物が多く生息し、密猟等の危険があるため、実際にキクザトサワヘビが発見されたポイント近くに立看板を設置するのはよくないが、なるべく多くの人目に触れさせたいため、観光地である「だるま山」近くの駐車場に設置したとのこと。

#### < 自衛隊通信基地周辺の沢 >

従前良く発見された自衛隊通信基地周辺の沢に行く。沢には自衛隊の設置した鎖が張られているゲートを通じた。前日に自衛隊には調査のためゲートに入ることを通知済みで了承済みであった。

沢はかなり小さいもので、水量はほどほどで、底は暗褐色ないしこげ茶色で石

がごろごろしている。沢には、東南アジア産の1メートルもある大うなぎがときどき現れるため、大うなぎを取ろうとする住民の罾がしかけられていた。罾は大きな筒状のもので、流されないようにロープで固定されていた。

長靴を履いて、沢を下ろうとしたが、ハブがいること、久米島ホタルの原虫の生息地でもあり、人間がむやみに沢に入ると影響がでること、沢の上流地域のため、影響が出ると下流にまで広範囲に影響が及ぶことから断念した。

沢周辺を観察して終了した。

#### < 白瀬1号ダム >

上記調査した沢は一度白瀬1号ダムに流れ込む。白瀬1号ダムは農業用水確保のためのため池で、周囲は森と崖に囲まれている。上記調査した沢以外にも多くの沢から水が流れ込んでいた。くまなく調査するにはボートが必要とのこと。

久米島は地質的に水を通しにくい地層からなっていて、ダムを建設すると水がたまりやすく、昔から沖縄諸島の中でも水が豊富だった。昔は久米島では稲作が盛んだった。

ダムから水を流すポイントは急激な坂になっていた。大雨によってキクザトサワヘビが流され、下流で発見されることも幾度かあり、この坂を下って行ったものと考えられる。上記大うなぎは、その急激な坂をも登る。

ダムの周辺の一部では、建設工事が行われており、山城氏は詳しくは知らないが、キクザトサワヘビの指定区は同時に沖縄県の鳥獣保護区でもあることから、鳥獣の観察所を建設しているらしいとのこと。ただ、当該建設現場は、もともと山肌がむき出しであったとのこと。

#### < 上江州ダム >

さらに上江州ダムに向かう。ダム周辺は、森と崖であった。ダムに到着すると「ワシ」か「タカ」のような大型の猛禽類が飛んでおり、山城氏は鳥獣保護区内の鳥の確認のためか、すかさず望遠鏡で鳥の種類を確認していた。

久米島には、群れからはぐれた鳥が1羽で飛来することもよくあるとのこと。

#### < 比屋定小学校裏 >

比屋定小学校裏の沢は、一方が崖で森が茂っており、一方は小学校のグラウンドに面した道路である。かなり小さい小川で、水量は一部下流側を除きほとんどなかった。指定区の北側の自衛隊通信基地や宇江城跡のさらに北側は急激な崖になっており、昔から人間の手が加えられていない地域が多い。キクザトサワヘビも、かような人の踏み込まない崖の数箇所の沢に生息していると推測されている。

比屋定小学校裏は、丁度上記急激な崖が終わる地点であり、平地との境界地であるため、崖の上方にいたキクザトサワヘビが、大雨等何らか事情により崖下まで移動し、発見されることが多いとのこと。実際昨年比屋定小学校近くの比屋定中学校の排水路でキクザトサワヘビが発見された。このヘビは大雨によって流されたようである。

また、小学生など近所の子供たちの遊び場でもあって、小学生などが遊びの途中でキクザトサワヘビを発見することが多い。比屋定小学校周辺には多くのキクザトサワヘビが生息するとの仮説もあるが、土地柄小学生等が多くいる場所で、そのため発見回数が多いだけであって、キクザトサワヘビの個体数はやはり少ないと思われる。

さらに、キクザトサワヘビの指定区以外でもときどき発見されることがあるが、個体数が増加し、生息地が拡大しているのではなく、上記のように大雨によって流されたキクザトサワヘビが発見されるだけで、個体数の増加や生息範囲の拡大など全く分かっていない。

沢には、サワガニがいたが、久米島のサワガニはかように内陸部まで進出している。

#### < 宇江城城跡 >

宇江城は室町時代ころの城で、仲里村の教育委員会の手で発掘調査が進められている。宇江城は久米島で自衛隊通信基地に次ぐ二番目の高さにあり、キクザトサワヘビの指定区が一望に見渡せた。指定区は多くが森林であったが、その森林地域内には、牧場地が食い込んでおり、ダムも散見された。仲里村側の指定区隣接地域には開墾地が多く存在した。開墾地は赤土である。

発掘現場では、前日仲里村教育委員会でヒヤリングをしていただいた方が発掘調査を行っていた。城の北側は上記急激な崖になっていた。城壁は石を積んだだけであり、その方が攻撃してくる敵に投石したり、城壁を登れなくするなどの点で効果大きい、全部の発掘にはあと10年くらいはかかるとのこと。

#### < 比屋定バンタ・展望台 >

久米島の北側には「エビ」の養殖場が海岸地域に多く建設されていた。最近では海洋深層水の採取も行っている。

#### < 昼食 >

昼食時委員が、山城氏に指定区域内では、生物の狩猟・採取は禁じられているが、最初に行った自衛隊通信基地周辺の沢にあった大うなぎ捕獲用罟の仕掛はし

てはならないのではないかと質問するが、山城氏は良く分からないとのことであった。住民は他にも、山菜の採取や他の動物の捕獲のため森に入るとのことであった。

#### < 阿嘉地区の山中 >

キクザトサワヘビの生息地と推測される場所として、阿嘉地区の山中に行った。

周囲は道路が1本あるものの、密林であり、ハブの危険もあって道路から沢を見ざるを得なかった。沢は小川程度の大きさで、周囲が密林に覆われ水量は確認できなかった。

#### < 阿嘉地区の海岸 >

キクザトサワヘビが海岸で発見されたという阿嘉地区の海岸に行く。海岸の一方には小高い山があり、森林に覆われていた。海岸には沢があり水量もあったが汽水であった。キクザトサワヘビは、きれいな水のみで生息していると思われ、海岸で発見されたキクザトサワヘビは、やはり大雨等で流されたものと推測される。

海岸には、沖縄県の天然記念物に指定されている「ヤドカリ」がいたが、住民は捕獲し魚の餌にしているとのこと。

#### < 自然文化センター >

その後自然文化センターに戻った。自然文化センターの展示品を山城氏に案内いただく。久米島の希少動物は多く、写真や模型が展示されていた。また、久米島の歴史や出土品など多くのものが展示されていた。

久米島の成り立ちは、中国大陸と地続きの時代もあれば、東シナ海が湖であった時代、南西諸島が沈降し海底にあった時代、隆起などしたせいか島になった時代などの複雑な過程を繰り返していた。

サワヘビは、久米島のほかには中国南部の高山やインドネシアの高山にしか生息しておらず、何故久米島にサワヘビが生息しているのか不明である。ただ、中国と地続きの時代は、久米島周辺が揚子江の河口であつたらしく、久米島は当時高山であった可能性もあり、時代は不明だが中国大陸から渡って来て生息したのだろうと推測できるが、キクザトサワヘビについてはほとんど何も分かっていないのが現状である。

その後、山城氏にお礼を述べ終了した。

以 上